

自動ドア業界の最新トレンドを見る

JADA

Japan
Automatic
Door
Association

全国自動ドア協会 会報



世界遺産：富士山〈山梨・静岡〉

● 全国自動ドア協会 創立40周年特別記念号



標高 3,776m、日本を象徴する独立峰

富士山は、山梨県と静岡県にまたがる活火山である。その優美な風貌は、古来より日本人の重要な信仰対象であり、日本国外でも日本の象徴として広く知られている。数多くの芸術作品の題材になり、葛飾北斎らの浮世絵を通じて、ゴッホなど海外の芸術家にも影響を与えた。

当初は世界自然遺産への登録が検討されていたが、環境管理（特にゴミ問題）が困難なため国は推薦を見送った。その後、文化的景観という観点から世界文化遺産への登録手続きが進められることとなり、2013年6月ユネスコ世界遺産委員会において、「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録されることが決定した。

画：杉井洋一

C O N T E N T S

全国自動ドア協会 創立 40 周年特別記念号

会長のご挨拶	3
創立 40 周年によせて ～ご挨拶・祝辞～	4
JADA Archive ● 協会会報 創刊号を振り返る	
「発刊のごあいさつ」第二代会長 古屋勇造氏 (故人)	6
創刊号を編集された小谷武彦氏の回想	6
記事「新標準積算価格表を発表」	7
協会のあゆみ ● 2004～2013年	8
各委員会の活動記録 ● 2004～2013年	10
DATA ● 自動ドア生産台数の推移 (2004～2013年)	12
自動ドア施工技能士の推移 (2004～2013年)	12
JADA 制作物のご紹介 (2004～2014年)	13
JADA 正会員／賛助会員 一覧	14
協会組織図	16
協会役員 一覧	16



一九七四年四月の創立より、四十周年。
 会員各位、関係官庁、関連業界、
 そしてお客様方に深く御礼申し上げます。

1974年4月の創立より、40周年を迎えることが出来ました。第一次石油ショック直後の厳しい時代に当協会が旗揚げしてから、幾多の経済の激変を乗り越え、今日に至れましたこと喜ばしい限りであります。この間、我が国は世界一の自動ドア大国となり、当協会の地位も向上してまいりましたが、これもひとえに、会員各位の弛まぬ努力、関係官庁のご指導、ご鞭撻、関連業界のご支援、そしてお客さま方にご愛顧いただいた賜物であり、深く御礼申し上げます。

1990年のバブル崩壊後、つい最近まで経済の長い低迷が続きましたが、その間も、当協会は自動ドアを安全、安心に利用していただくための地道な活動を続けてまいりました。1992年には、「自動ドア施工技能審査」が国家検定の「自動ドア施工技能検定」となり、2007年には同検定合格者累計が4,000人を突破し、また、1996年には自動ドア年間生産台数が過去最高の17万台を超えるに至りました。

他方、2004年3月に大型回転ドアにおける痛ましい死亡事故が起き、自動回転ドアの安全確保が急務となり、2005年8月に「自動回転ドア-安全性」JIS規格が制定され、同年10月にはスライド式自動ドアに関しても「自動ドア安全ガイドライン」を自主制定致しました。

最近10年間の外部環境としては、2008年に起きたリーマンショックは、1929年の世界大恐慌以来の規模とスピードで世界同時不況を招き、未だに世界各国の債務過多として傷跡を残しています。また、我が国では、2011年3月11日に東日本大震災が起き、その復興は、原発の安全確保と共に大きな課題として残っています。

そのような中で、2012年末に誕生した安倍政権は、経済再生を最重要課題として捉え、アベノミクスを打出し、円安、株価上昇をもたらし、デフレ脱却も垣間見えています。また、2013年9月には2020年のオリンピック開催地が東京と決まり、久々に日本経済、ひいては、自動ドア業界にとっても、明るい気運が訪れています。

当協会としては、今後も安全、安心の提供を最重要課題に据えると共に、少子高齢化社会の到来、省エネの必要性が唱えられる中で、自動ドアが、バリアフリー、エコを今まで以上に実現し、社会に快適を提供することに取組んでまいります。

皆さま方の相変らぬご指導ご鞭撻と、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

全国自動ドア協会 第十一代会長 三代 洋右

全国自動ドア協会 創立 40 周年によせて

ご挨拶「50周年に向かって、益々の発展を」

全国自動ドア協会 副会長（寺岡オートドア株式会社 代表取締役 会長） **吉田 敬**



創立 40 周年、誠にありがとうございます。40 年前、我が国の自動ドアの販売に携わる数社が発起人となり、当協会が発足しました。

従って、当協会の構成は、当時は販売が主、メーカーは賛助の関係にありましたので、初代会長はナブコシステムの山村泰三社長、二代目会長は、協立オートドアの古屋勇造社長でありました。

その後、協会は販売部会と製造部会の二つの部会から構成されることになり、メーカーが主の工業会的存在となりました。三代目の会長は、日本エヤーブレーキの梅原弘一専務が就任されました。爾来、代々の会長、事務局長は、メーカーの日本エヤーブレーキ（現ナブテスコ）より選出される様になりました。

今日に至るまで、会員の皆様の力により、自動ドアの品質基準、施工基準、保守基準が出来上がり、自動ドアの質の向上に貢献して参りました。また、施工に当たって、当協会独自の自動ドア施工技能審査制度を発足させ、技能の向上に資して来ましたが、現在は国家検定の自動ドア施工技能検定制度に発展し、多くの技能士を生んで来た事は、当協会の誇りに思っております。

本業と協会の二足のわらじをはく事は、ややもすると批判的となる事がありますが、当協会では、会長以下事務局長は代々公平無私に、会の向上の為に御努力されて来られた事に頭が下がります。来るべき 50 周年に向かって、会員の皆様と当協会の益々の発展を祈ってやみません。

ご挨拶「街の景観に溶け込んだ自動ドア」

全国自動ドア協会 副会長（ナブコシステム株式会社 取締役 会長） **坂田 秀信**



この度、当協会は創立 40 周年を迎えることとなりました。

当協会が設立された昭和 49 年という年は、奇しくも私自身が東京ドアエンジン株式会社（現ナブコシステム株式会社）に入社し、「自動ドア」に携わり始めた年でもあります。

その当時、世間では高度経済成長に終わりが見えてつつある中、オイルショックに見舞われ、また巨人軍の長嶋茂雄選手が現役を引退する等、一つの時代の変転期であったように思います。

昭和 49 年当時、自動ドアは徐々に人々の生活に浸透してきつつありましたが、まだまだ「自動で開いて、自動で閉まるドア」以上の存在ではありませんでした。

以来 40 年、会員各社の販売、技術、サービス、製品開発等における不断の努力、また関係官庁、関連団体各位のご指導、ご鞭撻のおかげで、現在では自動ドアは高度に制御され、街の景観に当たり前のように溶け込み、人間にとっての空気のように人々の社会生活の中で意識せずとも欠くべからざる存在となりました。

そして、これからも自動ドアをご利用いただく多くの方々に安全で快適な自動ドアを提供し続けていくべく、当協会を通じて業界の発展に邁進して参る所存です。

祝辞「40周年の慶祝と感謝で未来へ羽ばたこう」

全国自動ドア協会 第四代会長 **三軒 保**



我が国に建築用自動ドアが普及して十数年、10ブランドが出揃った1973年、高品質の製品とメンテナンスを供給し市場に安全と安心をとる目的で、1973年9月自動ドア懇話会が発足、翌年4月「全国自動ドア協会」と改称、積極的活動を展開した。

販売・施工に関して安全指針、品質、施工、保守の三技術基準を整備した。施工技能を向上させる目的で、国の技能検定制度に組み入れを請願したが、国は行政改革で職種の増加を抑制、請願は聞き入れられず、協会の行う技能審査を認定するとの案を示された。

学科教本「自動ドアの知識」を刊行し講習会で啓蒙した。1986年第一回技能審査を行い254名の合格者が施工技士として認定された。

1992年に自動ドア施工技能検定制度入りを果たし、受検者数と各県の職業能力開発協会の意向を勘案し、北海道から沖縄の18都道府県で実施を計画、各職業能力開発協会に説明と実施についてのお願いに東奔西走、各県検定員レベル合わせ、学科講習会、等々に忙殺され、新合格者自動ドア施工技能士204名と施工技士からの合格者を含め937名が発表になった1993年3月、肩の荷が下りた思いであった。今では6,125名の自動ドア施工技能士が生まれ、感慨深い。

安全と品質確保のため1995年11月「自動ドア試験方法」のJISが制定され、原案作りに協力した。1987年から10年間協会の運営に携わったことは名誉なことと感謝している。

自動ドアの効用が認識され多用されているが、建物の環境向上、エコ、安全、セキュリティの社会的要求は増加している。これらに対処した自動ドアシステムの開発、メンテナンス体制の確立等々、我々の責務は重大である。40周年の慶祝と感謝で未来へ羽ばたこう。

祝辞「2020年東京五輪開催で、業界にも明るい光」

全国自動ドア協会 第六代会長 **和田 友一**



全国自動ドア協会創立40周年、おめでとうございます。

私の会長就任当時は、バブル景気崩壊の影響が残り、会員各社にとって厳しい時代でした。協会としては、通行者の安全確保のため、経産省、エレベータ協会などから情報を得て「通行者の安全に配慮した自動ドアをお考えの方に」というパンフレットを作り、設計事務所などへのPRに務めました。

私の記憶に残ることは、2004年3月に発生した六本木ヒルズの大型回転ドアでの死亡事故です。協会としても新しく「大型自動回転ドア」を取扱い商品に追加し、協会を挙げて、国の「事故防止対策のガイドライン」制定に協力し、「自動回転ドア協議会」も生まれました。

これからは、2020年の東京五輪開催による景気浮揚で、自動ドア業界にも明るい光が差し、全国自動ドア協会創立50周年に向け、会員各社が繁栄なさいますことをご祈念申し上げます。

JADA Archive

温故知新の観点から、JADA 会報バックナンバーより、当時の記事をご紹介します。

第1号 全国自動ドア協会会報 1980. 2. 15

発行 昭和55年2月15日
全国自動ドア協会事務局
東京都港区海岸1-9-18
〒105 電話 03(437)-1261
発行責任者 古屋 勇造

全国自動ドア協会会報 創刊号

§ 発刊のごあいさつ

会長 古屋 勇造

資源小国といわれる日本が世界の先進的役割を果たすようになったのは、日本人の知恵と働きによる“良い品を、より安く、安全に顧客のニーズに応える”というメーカー、販売会社の激しい競争により量産効果をあげ、技術力の向上が立派な製品として社会に認められ、それが全ゆる分野で輸出力をつけ、今日の繁栄を生んだものと思います。

自動ドアも近々10数年で日常生活の必需品とされる程普及し、欧米先進国をしのぐ都市近代化の役割を果たしています。“生活を豊かで快適にする”社会的欲求が『開げゴマ』の寓話にもある人間の夢と、願望をかなえたものとして文化社会の象徴になりました。夢をつくる商品は十分な収益をあげてこそ張合いがあるのですが、現実には厳しいものがあります。世界の動き、国内の社会情勢が非常に流動性をもつ今日、これからの企業は外部の出来事や、勢力に敏感に反応するため外部のグループや、諸機関に機会を求めて参画する必要があるといわれていますが、協会がその役割の場になれるようにしてゆきたいと思ひます。

只、協会は何をしてくれるかと期待しても、その力はありません。『自分の会社は社会の一部であり、社会の各面の関係先に対して責任をもつ』という前提に立ち、先ず自らの企業体質に力をつけ、誇りをもち、フェアな姿勢で相互の親睦と協力により、関連団体にも協会の名のもとに働きかけ、技術の研鑽と業界の向上発展のため努めることが、社会の繁栄につながり、難局打開の自らの力になるものと思ひます。

幸に建設省監修の建築工事共通仕様書に本年中には自動ドアの施工基準が掲載されるようになりますが、これも協会の活動が社会的にも認められて来たもので、我々は自信をもって更に強固な団結のもとに、組織の強化を図り業界の発展に結びつけたいと思ひます。



【発刊のごあいさつ】 古屋 勇造氏 第二代会長

古屋氏（故人）は、協立オートドア株式会社代表取締役として全国自動ドア協会の発足にたずさわり、1979年2月から1981年2月まで第二代会長を務められました。

創刊号を編集された 小谷 元事務局長の回想



小谷 武彦氏
第二代会務局長

会員会社からの強い要請もあり、「協会の活動記録を残さなくてはならない」と古屋会長に命を受け、1980年2月に会報の発行を始めました。

当初は協会内部の機関誌であり、外部への配布は想定していませんでしたので、発行部数は約数十部だったかと思ひます。

はじめは各会議の議事報告の羅列といった内容で、3ヶ月に1回8頁で発行してました。

誌面は会員からの寄稿よりも、全て事務局長が会員にヒヤリングして纏めるつもりでました。しかし議事録中心では会報とは言えないとご意見をいただき、少しずつ写真や関連ニュースなどを盛り込みながら、体裁を整えていきました。

創刊号当時はもちろんパソコンはなく、レイアウト・割り付け、校正と手づくりで苦労しました。役員には輪番表をつくり、順番に巻頭文を書いて貰ったのを憶えています。

会社の業務と事務局長を兼任していたので手が回らず、当時広報委員だった日根野理事、清水理事に良く手伝っていただきました。



JADA Archive



【写真】1980年5月、東京の霞ヶ関ビル(東海大学校友会館)で行われた「全国自動ドア協会 第一回全国大会」。約190名が出席しました(創刊号より)。

§ 新標準積算価格表を発表!!

販売部会流通問題研究会で

第二次オイルショック以来の原材料の高騰を背景として、自動ドア価格の改訂が強く叫ばれていましたが、三船販売部長の下で流通段階での価格の乱れの問題を検討することからスタートした「流通問題研究会」では、10月「品質を保証する価格」と題した会員各社の標準積算価格をまとめあげて、印刷物として11月に作成・発表しました。

会員各社の標準積算価格は下記の通りです。

種別 ブランド	片 引		引 分	
	軽 量	重 量	軽 量	重 量
ナ ブ コ	LS-23 (300,000)	LS-41 (380,000)	LS-23 (420,000)	LS-41 (480,000)
テ ラ オ カ	SOV-60K (298,000)	SOV-100K(380,000)	SOV-150K(412,000)	SOV-200K (480,000)
ド リ ー ム	35SA (287,000)	70SA (372,000)	35SSA (419,000)	70SSA (480,000)
ダ イ ハ ツ	EH-10 (286,000)	EH-15 (360,000)	EH-10 (407,000)	EH-15 (460,000)
ミ リ オ ン	3100S (295,000)	5170S (380,000)	4200WI (410,000)	6270W (480,000)
アラビアン	ADH-1A/2A-1(290,000)	AD-L/R-1(390,000)	ADHW-1A/2A-1(370,000)	ADW-1 (450,000)
ニュースター	NSF-3 (280,000)	EM-3 (340,000)	NSF-2D (390,000)	EM-2D (435,000)

注) 1. 二次側配管工事、ガイドレールは別途とする。 2. 検出装置はゴムマットスイッチ式とする。

1980年2月15日に発行された「全国自動ドア協会会報」創刊号より

当時の日本経済は、第二次オイルショック後の原油価格の高騰によって、大きく混乱していました。高度成長期を支えた消費主義から「節約は美德、省エネ」へと初めて意識改革がもたらされた年でもありました。

1980年物価 葉書40円、ラーメン330円、国鉄初乗110円、映画1,400円

1980年出来事 ●ジョン・レノンがNYで射殺。 ●プロ野球選手、王貞治が現役引退。
●モスクワオリンピックをボイコット。 ●「ボカリスエット」が発売。

協会のあゆみ

2004 ▶▶▶▶ 13



全国自動ドア協会 理事 (2004年時点)

2004年

正会員 19 社 / 賛助会員 6 社

- 4月 「自動ドア品質基準、施工基準、保守基準」改正
協会として初めて「大型自動回転ドア」を取扱い
対象に追加
「大型自動回転ドア事故防止対策ガイドライン研究会」発足
- 7月 「大型自動回転ドア安全対策マニュアル」発表
「自動回転ドア安全規格 JIS 原案作成委員会」発足
- 9月 「自動ドア安全ガイドライン策定 PJT」発足
- 10月 「自動回転ドア協議会」発足
- 11月 協会の経済産業省窓口が製造産業局住宅産業課業
建材課となる
全国自動ドア協会 30 周年記念大会



2004年
30周年記念大会



2005年 海外建築事情視察

2005年

正会員 18 社 / 賛助会員 6 社

- 2月 第1回賛助会員交流会開催
- 3月 「自動回転ドア安全規格 JIS 原案」研究成果を報告
建物設計、管理面の「自動回転ドア安全啓発広告」掲載
- 4月 創立 30 周年記念事業「海外建築事情視察」催行
「自動ドア安全ガイドライン (スライド式自動ドア編)」自主制定
- 6月 **第七代会長 本田 侑三 就任**
- 8月 「JIS A4721 自動回転ドア-安全性」JIS 規格制定
- 9月 「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」発行
「自動ドア安全ガイドライン」に関する会員向け研修会開催
- 10月 自動ドア安全ガイドライン公表
「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」一般配布開始

2006年

正会員 18 社 / 賛助会員 8 社

- 3月 「自動ドア安全ガイドライン (スライド式自動ドア編)」
周知広告開始
2005 年度生産台数、16 万台まで回復
- 4月 「自動ドア安全ガイドライン (スライド式自動ドア編)」
適用開始
「自動ドア品質基準、施工基準、保守基準」改正
- 9月 会員向け研修会「防犯と自動ドア」「自動ドアの安全」開催
「自動ドアの知識」第 11 版発行

2007年

正会員 18 社 / 賛助会員 8 社

- 3月 自動ドア施工技能検定合格者累計 4,000 人突破
(4,288 人)
会員向け小冊子「事例研究レポート」発行
- 8月 **第八代会長 阿部 裕 就任**
- 9月 会員向け研修会「バリアフリー新法の理解と実践」
「自動ドアの安全性向上に関する理解と実践」
女性自動ドア施工技能士の紹介と講演

社会の出来事

2004 4月 トヨタが日本初
純利益1兆円超え
8月 アテネ五輪開催
12月 スマトラ島沖地震

2005 3月 愛知万博
愛・地球博 開幕

2006 1月 ライブドアショック
2月 表参道ヒルズ
オープン

2007 4月 東京丸の内に
新丸ビルオープン
10月 日本郵政公社
民営化

2008 8月 北京五輪開催
9月 リーマンブラザーズ
経営破綻



2009年 研修会



2010年 自動回転ドア換気量測定本実験



2011年 定期総会



2012年 賀詞交換会



2013年 優秀施工技能士 表彰式

2008年

正会員 18社 / 賛助会員 8社

- 3月 自動ドア施工技能検定合格者累計 4,500人突破 (4,571人)
- 5月 小児向け小冊子「自動ドアの安全な通り方」発行
- 6月 第九代会長 横山 雄二 就任
- 8月 HPに「自動回転ドアの安全性/セーフティファースト」掲載
- 9月 会員向け研修会「適正取引ガイドライン勉強会」開催

2009年

正会員 17社 / 賛助会員 8社

- 3月 自動ドア施工技能検定合格者累計 5,000人突破 (5,208人)
- 6月 第十代会長 今村 雄二郎 就任
- 6月 第1回 優秀自動ドア施工技能士表彰
- 7月 自動ドア「保守点検のおすすめ」発行
- 9月 会員向け研修会「不況の時代の営業マンの役割」「適正取引ガイドラインの勉強会」開催
- 12月 法人制度改革に伴う勉強会

2010年

正会員 16社 / 賛助会員 8社

- 3月 「自動ドアの知識」第12版発行
- 7月 日経アーキテクチュア誌に「自動回転ドア、復活の兆し」が掲載
- 9月 会員向け研修会「変革こそ明日への道」「改正：適正取引ガイドラインの勉強会」開催
- 11月 「戸袋側警告ラベル」自主制定、発行

2011年

正会員 16社 / 賛助会員 8社

- 2月 JADA 会報リニューアル (表紙カラー化、増頁、新企画)
- 4月 「製造物責任法に関する実務手引書」発行
- 6月 第十一代会長 三代 洋右 就任
- 7月 「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」発行
- 8月 「自動ドア換気量簡易評価プログラム (SEAVEC)」の勉強会開催
- 9月 会員向け研修会「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」「製造物責任法に関する実務手引書」開催

2012年

正会員 14社 / 賛助会員 8社

- 3月 協会3基準「品質」「施工」「保守」改定版発行
- 4月 「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドブック」発行
- 9月 会員向け研修会「自動ドアの省エネ効果」「ニュースの裏読み」開催
- 12月 「自動ドアを正しくご利用いただくために」改訂版 発行
「自動ドア安全ガイドライン」改訂版 発行
「自動ドア安全ガイドブック」改訂版 発行

2013年

正会員 14社 / 賛助会員 8社

- 2月 「自動ドア省エネポスター」発行
- 3月 「自動ドアの知識」第13版発行
- 9月 会員向け研修会「安倍政権下の税制の課題/消費税と法人税」「過去に学び現在を点検し巨大地震に備える」開催

2009 5月 裁判員制度開始
9月 民主党政権 鳩山内閣発足
2010 6月 小惑星探査機 はやぶさが帰還
10月 ノーベル化学賞受賞 根岸英一氏、鈴木章氏
2011 3月 東北地方太平洋沖で 大地震
8月 ロンドン五輪開催
12月 iPS細胞の研究で 山中伸弥氏がノーベル賞
12月 自民党が与党に 返り咲く
2013 5月 長嶋茂雄氏と 松井秀喜氏に 国民栄誉賞
6月 富士山が世界文化 遺産に登録

全国自動ドア協会 各委員会の活動記録

2004 ~ 2013 年

企画委員会

当企画委員会は、当初「流通問題研究会」と言われ、全国に支部会を発足し活動をしていました。その後、企画委員会と名称変更し、既に20年近く活動を行なっています。

例年の活動として、4月に協会の自動ドア生産台数、地区別・業種別据付台数、リニューアル台数を調査し、自動ドアの需要動向、予測を行なっています。また、9月には、その時代に要求される情報・知識を題材とし、会員向け研修会・講習会を開催しています。

その他各種の課題に基づき、会合を開催していますが、最近では、総務部会の他の委員会と交流を深め、共通課題を検討すべく、安全委員会、広報委員会との合同会議を開催し、活動成果を挙げています。また、賛助会員との交流会を開催し、自動ドア関連業者との和・連携を広げています。今後共、協会活動に各位のご協力をお願い申し上げます。



企画委員会
委員長 清水 勲夫

安全委員会

安全委員会としてこの10年を振り返ると、ちょうど10年前の協会創立30周年にあたる2004年3月に発生した六本木での大型回転ドア事故が強く印象に残っています。この事故が自動ドアの安全確保のための体系確立の契機になり、翌年に自動ドア安全ガイドラインを制定しました。

ガイドライン制定後は、自動ドアと関係の深い業界や団体および行政など協会の外に向けてガイドライン制定の主旨をご理解いただくと共に、会員各社への周知・啓蒙を委員会として集中的に取り組んで活動してきました。

その後、2010年には戸袋側警告表示の基準化や2011年の多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン制定など逐次、自動ドアの利便性と安全性の両立に取り組んできました。



安全委員会
委員長 横山 雄二

広報委員会

広報委員会では、ニュースリリースなどの定例業務以外に、次のような事柄を実行しました。

一つは、協会会報の刷新です。協会活動を記録し伝えるということに加え、広く楽しく読んでもらうためのコラムを新設、賛助会員のためのPRコーナーも設けました。

二つ目は、ホームページのリニューアル。いわゆる工事中になっていた部分を解消し、諸データも最新版にアップデートしました。

三つ目は、省エネポスターの作成と配布。震災後、自動ドアの消費電力に関して、一部誤った報道が見受けられ、また既存の自動ドアの使用を停止する動きがありました。環境の時代と言われるなか、日頃の効果的広報活動の重要性を再認識しました。



広報委員会
委員長 古野 重幸

技能開発
委員会

技能開発委員会は、毎年実施されている自動ドア施工技能士の技能検定に関し、正会員各社の協力のもと、受検希望者のとりまとめ、実技試験場の設営、検定委員及び検定補佐委員の派遣等をサポートしてきました。

毎年 250 ～ 300 名程度の方が合格し、2013 年度においては、自動ドア施工技能士の全国累計数は 1 級 119 名、2 級 75 名、合計 194 名となりました。

自動ドアの施工現場でその品質と性能をしっかりと仕上げることのできる自動ドア施工技能士は、その技能を駆使して、自動ドアの安全確保、快適性能の維持に貢献、需要家の皆様の満足度を高め、自動ドアを利用する通行者の皆様の信頼をいただく上で大変重要な役割を担っています。

当協会では、広く自動ドア施工技能士の役割を知らせるとともに、技能士の方々が誇りを持って職務に取り組めるよう 2009 年から優秀自動ドア施工技能士表彰制度を発足し、現在までに 112 名が受賞しています。



技能開発委員会
委員長 田原 長俊

技術基準
委員会

技術基準委員会では、安全性向上のための基準作りに邁進した 10 年間でした。2004 年 3 月の六本木回転ドアの事故を受け、6 月制定の「自動回転ドアの事故防止対策に関するガイドライン」、2005 年 8 月制定の「JIS A 4721 自動回転ドア-安全性」、これと並行し、同年 4 月に自主制定した「自動ドア安全ガイドライン(引き戸編)」の原案作成に参画しました。

また、2011 年 7 月には国交省の要請を受け、「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」を自主制定しました。

近年、国際的にも安全基準の整備が進んできており、今後はこれらとの整合を考慮した JIS 基準制定への取り組みが業界の発展には不可欠になって来ると考えています。



技術基準委員会
委員長 上仲 宏二

自動回転
ドア協議会

自動回転ドア協議会は、ちょうど 10 年前の 2004 年 3 月に起きた六本木回転ドアの事故に関連して発足いたしました。自動回転ドアの安全対策に関して、関係官庁のご指導のもと、協議会会員と協力して同年 6 月には「自動回転ドアの事故防止対策に関するガイドライン」を制定し、その後の「JIS A 4721 自動回転ドア-安全性」の作成にも参画いたしました。

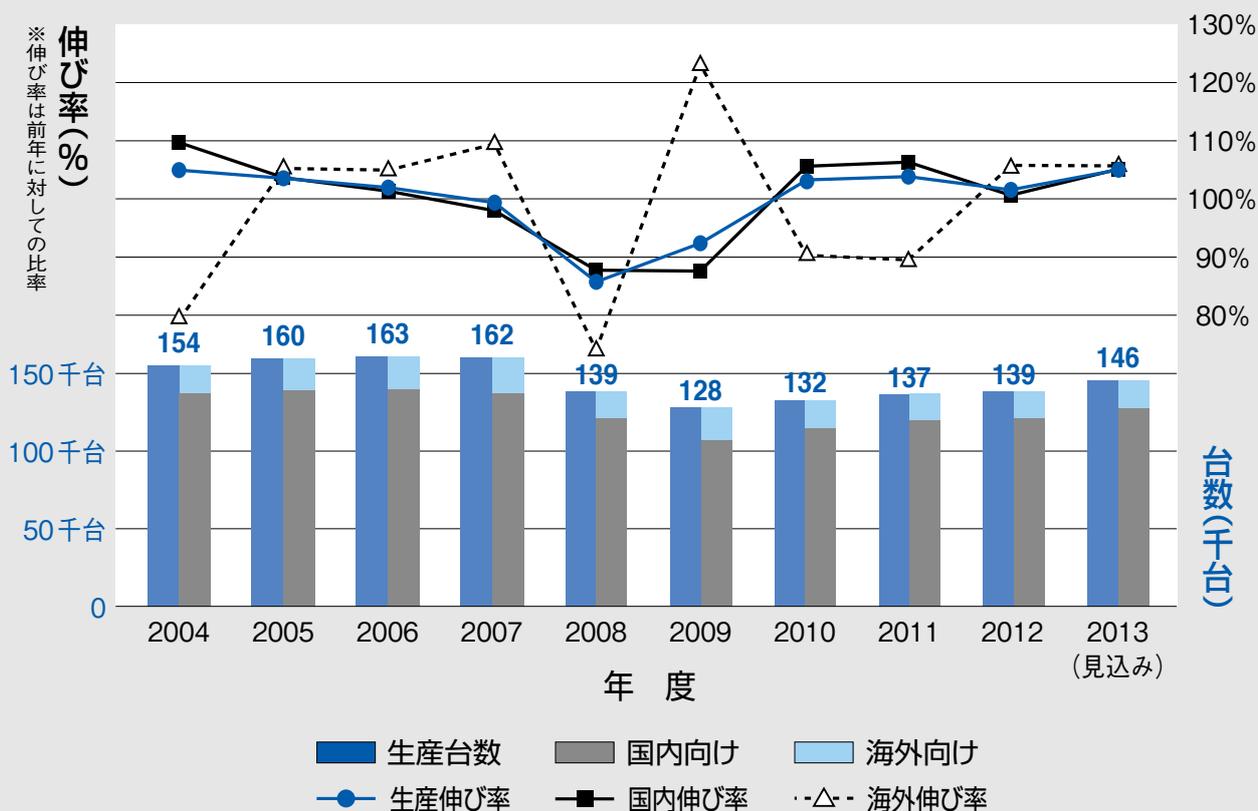
安全対策制定後は、自動回転ドアの換気量を計算できる「自動ドア換気量簡易評価プログラム (SEAVEC)」を作成したり、建築雑誌に自動回転ドアの優れた省エネ性能を紹介した広告を掲載するなどして自動回転ドアの販売促進活動を続けてまいりましたが、10 年が経過した現在においても、自動回転ドアの需要は残念ながら低迷しております。今後も継続的な広報活動を通じて、自動回転ドアの需要促進を図ってまいります。



自動回転ドア協議会
委員長 坂田 秀信

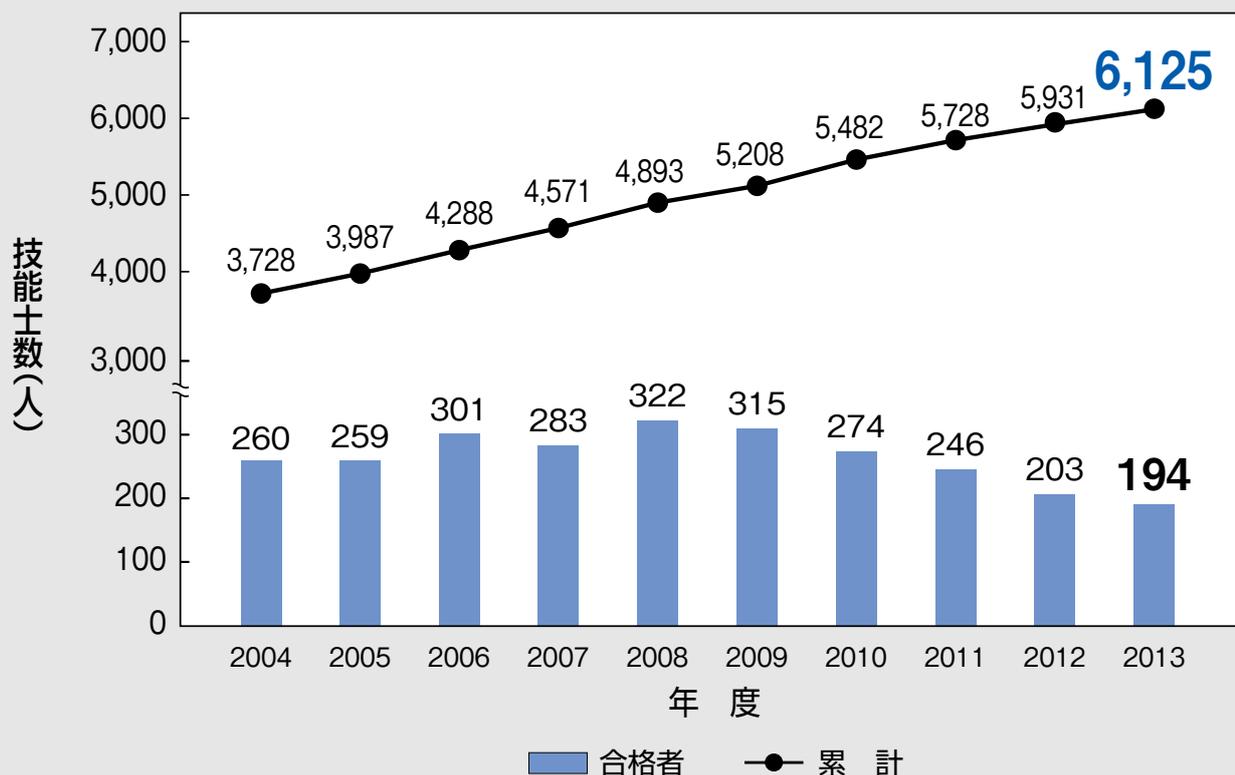
自動ドア生産台数の推移

from 2004 ▶ 2013



自動ドア施工技能士の推移

from 2004 ▶ 2013



JADA制作物のご紹介

from 2004・2014

▶2005年9月発行(2012年12月改訂版発行)



「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」～関係主体向け解説書～

A4/8頁/フルカラー

自動ドアは設置環境が様々なため、安全性の確保に設置計画から保守管理までの各段階における関係者全員の理解と協力が不可欠です。

そこで、自動ドアを利用する通行者の安全性の向上を図るために策定した「自動ドア安全ガイドライン(スライド式自動ドア編)」を受けて、関係主体向けにその要旨を解りやすくまとめた「スライド式自動ドアの安全ガイドブック」を制作しました。

累計で40万部発行され、ガイドラインの解説書として役立てられています。

▶2008年6月発行



「自動ドアの安全な通り方」～小児・幼児向け、安全啓発パンフレット～

A5/8頁/フルカラー

これまでとは少し視点を変え、小学生・未就学児とその保護者・教育者の皆さま向けの小冊子「自動ドアの安全な通り方」を制作しました。

イラストを使って具体的な例を説明しながら、「ぶつからない」「はさまれない」ための“自動ドアの安全な通り方”を紹介しています。

また全ての漢字にルビをふるなど、お子様にも伝わりやすい工夫を取り入れています。

▶2012年4月発行



「多機能トイレ用自動ドアの安全ガイドブック」～関係主体向け解説書～

A4/8頁/フルカラー

このガイドブックは、2011年7月に制定された「多機能トイレ用自動ドア安全ガイドライン」の重要な部分を要約し、解説したパンフレットです。

車イス使用者、オストメイト(人工肛門・人工膀胱所有者)、高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方など、多機能トイレを利用される人々が、より安全に利用出来るように、自動ドアが配慮すべき事柄を具体的に示しています。国土交通省、経済産業省、関連団体に配布されています。

▶2013年5月発行



「自動ドアの省エネポスター」～ユーザー向けPRポスター～

A2/1頁/フルカラー

省エネや環境問題が注目される近年、全国自動ドア協会も、自動ドアの優れた消費電力と閉じ忘れ防止による冷暖房費軽減効果を解説した省エネポスターを制作しました。

ポスターは国土交通省、経済産業省、関連団体に配布し、建築関連の省エネイベントでも使われています。

また定期的に、建築業界向け雑誌に自動ドアの省エネ広告を掲載し、意外と知られていない自動ドアの消費電力の低さをアピールしています。

▶2014年発行予定



「こんな業者にはご用心!!」～自動ドア所有者向けパンフレット～

A4/2頁/フルカラー

全国自動ドア協会では、自動ドア所有者の皆様が安心してご利用いただけるように、メンテナンスに関する注意を促すリーフレット「こんな業者にはご用心!!」を制作中です。

全国自動ドア協会に実際に報告された具体的な事例をもとに、イラストを使って分かりやすく解説しています。

JADA

正会員 / 賛助会員
(2014年3月31日現在)

正会員

※ブランド名五十音順



扶桑電機工業株式会社

- 代表：佐野 健二郎
- 住所：東京都品川区南品川 6-3-10
- 電話：03-3474-1200
- ブランド名
ドリーム



北陽電機株式会社

- 代表：尾崎 仁志
- 住所：大阪市中央区常盤町 2-2-5
- 電話：06-6947-6331
- ブランド名
アラビアン



オリент産業株式会社

- 代表：今浪 健治
- 住所：福岡市中央区舞鶴 1-4-19
- 電話：092-781-0511
- ブランド名
ナブコ



昭和オート株式会社

- 代表：吉浦 正幸
- 住所：神奈川県神奈川区西寺尾 1-3-2
- 電話：045-433-7070
- ブランド名
ショウワオート



ナブコシステム株式会社

- 代表：山村 望
- 住所：東京都港区虎ノ門 1-22-15
- 電話：03-3591-6411
- ブランド名
ナブコ



寺岡オートドア株式会社

- 代表：吉田 毅
- 住所：東京都大田区千鳥 3-19-3
- 電話：03-3758-3531
- ブランド名
テラオカ



ナブコドア株式会社

- 代表：横山 雄二
- 住所：大阪市西区西本町 1-12-22
- 電話：06-6532-5843
- ブランド名
ナブコ



寺岡オート・ドアシステム 株式会社

- 代表：有倉 良則
- 住所：東京都品川区西五反田 3-6-21
- 電話：03-3449-3521
- ブランド名
テラオカ



ナブテスコ株式会社

- 代表：小谷 和朗
- 住所：東京都千代田区平河町 2-7-9
- 電話：03-5213-1133
- ブランド名
ナブコ



寺岡ファシリティーズ株式会社

- 代表：古野 重幸
- 住所：札幌市中央区南 1 条東 2-8-2
- 電話：011-222-3572
- ブランド名
テラオカ



平安通商株式会社

- 代表：長屋 昌宏
- 住所：東京都大田区大森北 3-4-5
- 電話：03-3766-4881
- ブランド名
ビスコ平安





昭和建産株式会社

- 代表：竹山 敏彦
- 住所：群馬県邑楽郡邑楽町中野 1453
- 電話：0276-88-2121
- ブランド名
ミリオン



橋田技研工業株式会社

- 代表：橋田 寛
- 住所：大阪市平野区加美北 6-15-14
- 電話：06-6791-7000
- ブランド名
THU ハシダ



賛助会員

※社名五十音順



オプテックス株式会社

- 代表：小林 徹
- 住所：滋賀県大津市雄琴 5-8-12
- 電話：077-579-8700

■事業：自動ドア用センサ、
シャッター用センサ、入退室管理 他



BEA ジャパン株式会社

- 代表：ジョン・ダン
- 住所：東京都世田谷区駒沢 3-28-11
- 電話：03-5433-7811

■事業：自動ドア用センサー、シャッター、
パーキング各種センサー 他



旭光電機株式会社

- 代表：畠田 真一
- 住所：神戸市中央区元町通 5-7-20
- 電話：078-341-1837

■事業：産業用各種センサー、コントローラ、
マイコン応用制御装置 他



藤原工業株式会社

- 代表：松井 均
- 住所：大阪市淀川区加島 3-14-24
- 電話：06-6302-5511

■事業：強化ガラス、強化ガラスドア、
合わせガラスの加工 他



株式会社信明産業

- 代表：岡山 和正
- 住所：東京都大田区平和島 6-1-1
- 電話：03-3767-4300

■事業：マットスイッチ、工業用ゴム製品
水道用ゴム輪、耐震ジョイント 他



株式会社ホトロン

- 代表：本田 忠盛
- 住所：東京都新宿区百人町 1-11-26
- 電話：03-5330-9221

■事業：自動ドア用センサー、看護・介護
用センサー、車両検知用センサー 他



ハードグラス工業株式会社

- 代表：下岡 嵩
- 住所：兵庫県伊丹市北伊丹 7-79
- 電話：072-784-3671

■事業：強化ガラスドア、安全ガラス、
複層ガラス、防犯ガラス 他

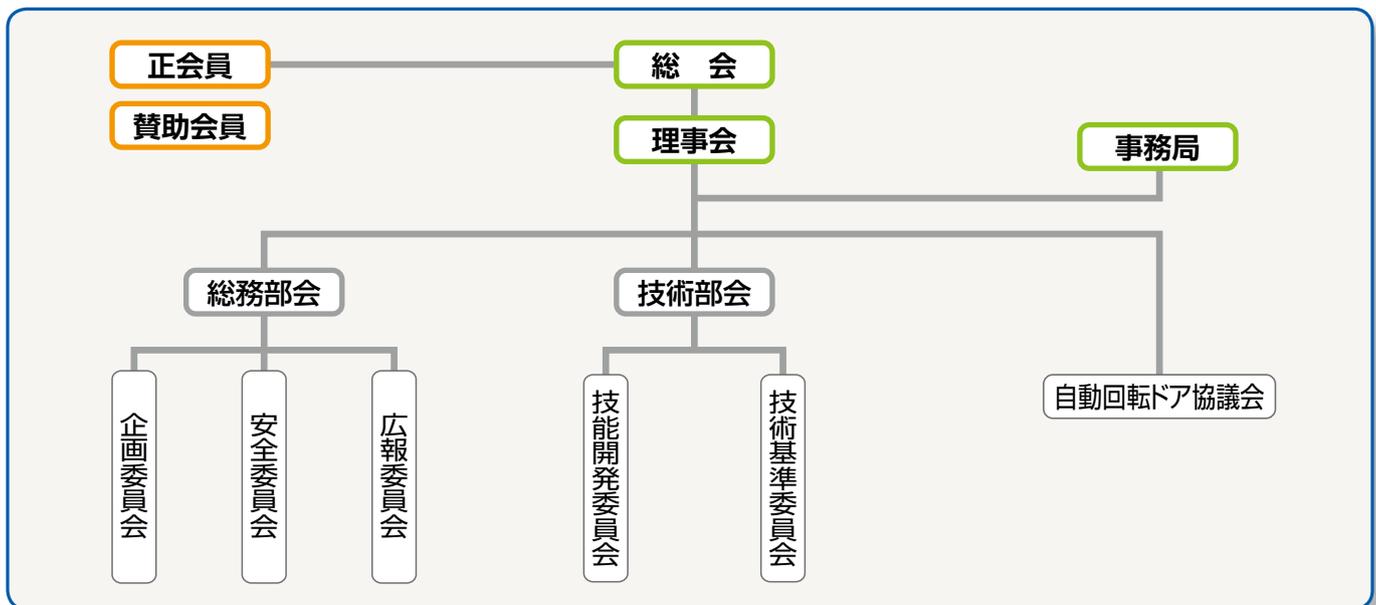


株式会社ワーム

- 代表：湯本 貴光
- 住所：埼玉県和光市本町 24-31 (和光オフィス)
- 電話：048-299-8551

■事業：リモコン、ガイドレール
マットスイッチ、各種パーツ 他

■協会組織図 (2014年3月31日現在)



■協会役員一覧 (2014年3月31日現在)

●会長

三代 洋右

ナブテスコ(株) 取締役 専務執行役員
住環境カンパニー社長

●副会長

吉田 敬

寺岡オートドア(株) 代表取締役会長

●副会長 兼 自動回転ドア協議会委員長

坂田 秀信

ナブコシステム(株) 取締役会長

●総務部会長 兼 安全委員長

横山 雄二

ナブコドア(株) 代表取締役社長

●技術部会長 兼 技術基準委員長

上仲 宏二

ナブテスコ(株) 執行役員 住環境カンパニー 副社長

●理事 企画委員長

清水 勲夫

寺岡オートドア(株) 顧問

●理事 広報委員長

古野 重幸

寺岡ファシリティーズ(株) 代表取締役社長

●理事 技能開発委員長

田原 長俊

扶桑電機工業(株) 取締役

●理事 事務局長

服部 潤資

全国自動ドア協会

●理事

有倉 良則

寺岡オート・ドアシステム(株) 代表取締役社長

●理事

今浪 健治

オリエント産業(株) 代表取締役社長

●理事

竹山 敏彦

昭和建産(株) 代表取締役社長

●理事

前嶋 洋治

北陽電機(株) 執行役員 ENT 事業部長

●理事

宮澤 勇

平安通商(株) 常務取締役

●理事

森川 茂

橋田技研工業(株) 取締役

●理事

山村 望

ナブコシステム(株) 代表取締役社長

●理事

吉浦 正幸

昭和オート(株) 代表取締役

●監事

高木 祐一

扶桑電機工業(株) 統括営業次長

●監事

福原 良昭

寺岡ファシリティーズ(株) 営業企画部長

JADA

全国自動ドア協会

〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18
TEL 03-3436-3287 FAX 03-5473-9576
Eメール: jadainfo@pastel.ocn.ne.jp
URL: http://jada-info.jp

全国自動ドア協会 (Japan Automatic Door Association) は、1974年4月に発足。自動ドアの製造およびその販売会社で構成され、社会に快適で安全な自動ドアを提供することを目的とした民間の団体です。

発行責任者: 広報委員長 古野 重幸

編集・制作: (株)グループ・ティー

発行月: 平成26年4月